

麻生すこやか通信

VOL. 34

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 広報誌 2018年7月

アジアとの連携・新しい治療への取り組み

今年2018年前半はアジアづいていました。1月に香港でSpineの国際学会にProgram Chairmanとして参加し、3つほど特別講演の発表をしました。2月は人工椎間板の講習会で香港へ行きました。3月は中国の福州で中国の全国脊椎脊髄学会があり、招待演者として呼んでいただき、頸椎症、頸椎後縦靭帯骨化症の外科治療の講演をしました。6月は台北でのAsia Spineに笹森先生と一緒に参加しましたが、その6月にはネパール、マレーシアから脳神経外科・整形外科の医師が手術見学に来られました。既に当院へは中国からも脳ドック希望で患者さんが来ておりますが、アジア諸国との関係は今後も一層強くなりそうです。

今年新しい医師が4名入ってくれました。1月から北海道医療センターから安田先生が統括診療部長として赴任し、外来だけでなく病院機能の多方面にわたる改革を進行中です。4月からはリハビリテーション専門医の安彦先生が入職しました。今まで療法士・聴覚士だけであったリハビリチームの核として、当院のリハビリ水準を引き上げてくれると期待しています。さらに4月からは血管障害の専門医として小林先生



中国福州での懇親会で中国、台湾の先生らと

が、富山大学から加茂先生が後期研修医として来てくれました。いずれも優秀な先生方です。



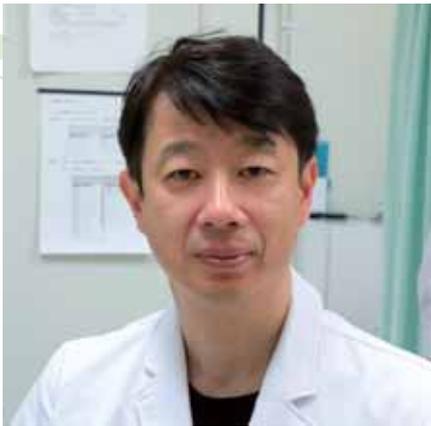
院長 飛驒 一利

現在、脳梗塞の急性期治療は劇的な変化を遂げています。血液の固まりを溶かす薬(TPA)、脳の腫れを抑える薬、血液が固まるのを防ぐ薬などの内科的な治療が以前は主でしたが、近年固まった血液(血栓)を血管内手術により回収する手術(血栓回収術)が脳梗塞急性期の新しい治療として着目されています。小林先生にはこの治療の専門家として大いに期待しています。

また当院では、脳梗塞、脊髄障害などの患者さまに対する治療として高圧酸素療法最新のタンクが6基ありますが、リハビリテーションと併用した効果的な治療を多くの患者さまが受けています。また頸椎ヘルニアに対する新しい外科治療として人工椎間板(CTDR)が国内でも限られた施設で7月から使用が出来るようになりました。もちろん当院も指定されました。従来の頸椎前方固定術と比べて頸椎の可動性が術後も保たれるので、若い患者さまで1椎間のsoft discと呼ばれるタイプに適応があると考えています。このCTDR療法については今年の11月の脊髄障害医学会で私はセミナーの講師を務める予定です。

今後も時代の要請に答えた新しい治療を積極的に取り入れ、患者さまの信頼に答える病院を目指していこうと思います。

ご挨拶



統括診療部長

安田 宏

PROFILE

1994年(平成6年)旭川医科大学卒業、北大脳神経外科入局。道内の関連病院に勤務。2004年10月より札幌麻生脳神経外科病院、2010年1月より国立病院機構北海道医療センター、2018年1月より札幌麻生脳神経外科病院(統括診療部長)。
日本脳神経外科学会専門医、日本医療マネジメント学会会員、医療経営士3級、医学博士

平成30年1月1日をもって統括診療部長として当院に迎えていただきましたので、ご挨拶申し上げます。私が卒後に北大脳神経外科学に入局した当時にお世話になり薫陶を受けた諸先輩や、大学病院の病棟で共に過ごした後輩もおり大変心強い限りです。ことに手術治療に関しては疾患グループ毎にスペシャリスト(スーパードクター)がいますので、ここは一つ考えを変え、医療者なら誰でもわかっているがなかなか手をつけられていない、または手をつけてはいるが問題解決の手法が不明確で頓挫しがちな諸問題について、自分なりのお手伝いができるのかを考えております。すでに進行中のことがらを列挙します。

- 1) 麻生脳神経外科病院の明日を考える
ワーキンググループ発足
- 2) 働き方改革プロジェクトチーム立ち上げ
- 3) 診療材料委員会を含む、院内コスト検討
ワーキンググループ立ち上げ
- 4) 地域医療連携の強化(救急外来や一般外来含む)

などです。以上の活動を通じて、いまだ当院に導入されていないことを始めるきっかけづくりをし、職員一人

ひとりのQOLを担保して安心して長きに渡って働いていける環境づくりなどを実現できればと思います。あくまでも、職員が自ら考えて行動し、より良い院内態勢をつくっていけるような形で提言やアドバイスができたと思いますし、そのために私自身も学んでいきたいと思っています。

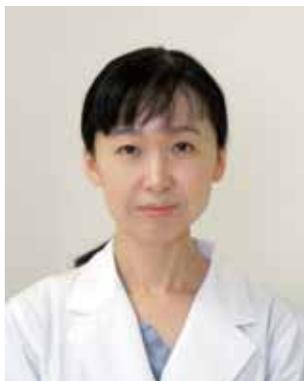
これらの、院内での業務マネジメントは、一般企業では手法も確立しており、現在では医療関係方面での成書や講演なども多く見られるようになっていきます。少子高齢化や増大する医療費の問題、介護診療報酬改定などの影響も大で、(今さらの感がなきにしもあらずですが)世の中では病院内の改革も叫ばれています。たとえ一般的な手法で何をやっても、ある程度の成果はあげられるのでしょうか。しかし、業務改善の真の到達時点は、その取り組みをとおして、自身の組織らしさを業務システムに落とし込み、組織のゆるぎないアイデンティを確立してブランドイメージを内外に向けて発信できる組織になっていくことであり、だからこそステレオタイプではない取り組みの妙味があると思われま。

医療の場合提供するサービスの対価は診療報酬によりきまっており、私たちが関わる医療の範疇では自らが値付けをすることができませんので、同一サービスに対する価格競争は一切存在しない独特の経営環境であります。したがって、他者との数的競争原理も大切になるわけですが、そこには膨大な医療資源の投入が必要になってきます。私見ですが、これからは唯一無二の特色を持って地域の中にとけ込み共存していくことが何より重要になるような気がしています。

いかに患者さまや時代のニーズにあった医療を、安全性と質を担保し、提供していくか、さらには来たる将来を見据えつつ、より効果的に麻生脳神経外科病院らしさを医療というかたちに結実していく必要があると思います。みなさん、どうぞよろしくお願ひいたします。

ドクターご紹介

+++++ Doctor introduction



医師 安彦 かがり

今年4月から常勤になりました。その前は、北大のリハビリ科で働きながら、こちらには非常勤でお世話になっていました。北大では大学院生として「頭部外傷後高次脳機能障害の分子イメージング」というテーマでSPECTやMRIの研究しつつ、大学の患者さまの嚥下障害の診療や痙縮の診療などをやっていました。その前は脳外科医でした。皆さまと一緒に、患者さまが元気に退院できるように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2004年旭川医科大学医学部卒業。2004年より旭川赤十字病院、北海道大学病院、溪和会江別病院、小樽市立第二病院、八雲総合病院、柏葉脳神経外科病院に勤務。2016年4月より当院勤務。
【専門医】日本リハビリテーション医学会専門医・日本脳神経外科学会専門医・日本脳卒中学会専門医



医師 小林 聡

今年4月より赴任いたしました、小林聡です。北海道大学脳神経外科血管障害班に所属しています。前病院で当院への異動が決定した時からずっと心待ちにしていました。日本のトップオペレーターから学べる機会を頂けたこと、本当に感謝しております。また、一方で急性期脳梗塞に対する血管内治療も自分に課せられた仕事です。昨年のガイドラインでgrade Aとなり、もはややらなければならない治療となりました。当院でも本治療を積極的に行っていきたいと考えています。より高い意識を持ち、患者さまにベストな医療を提供できるよう励みたいと思います。よろしくお願いいたします。

2011年新潟大学医学部卒業。その後、新潟市民病院勤務。2013年より北海道大学病院、手稲溪仁会病院、柏葉脳神経外科病院、KKR札幌医療センター、釧路労災病院に勤務。2018年4月より当院勤務。【専門医】日本脳神経外科学会専門医



医師 加茂 徹大

4月から赴任いたしました加茂徹大と申します。前任の山本・白石と同じく、富山大学から参りました。静岡県出身の私にとって北海道はあまりに遠く、北海道で生活する日が来るとは考えたこともありませんでしたが、この時期の北海道は非常に気候が良く快適に暮らせています。麻生ではもっとも若い医師であり至らない点多いですが、患者さまに寄り添った診療を提供できるように心がけています。限られた期間の赴任ではありますが、よろしくお願いいたします。

2013年 富山大学医学部卒業。その後、総合大雄会病院勤務。2015年より富山大学病院、富山赤十字病院、市立砺波総合病院に勤務。2018年4月より当院勤務。趣味:テニス



札幌東部 地域連携 セミナー

札幌東部地域連携セミナーが2月15日、札幌グランドホテルで開催され、市内東部地域から50人を超える医療従事者が集まりました。

一般公演では中村俊孝副院長が座長となり、杉山拓先生が「脳血管疾患の外科治療」について講演し、クラーク病院の桂律也先生が「心原性脳塞栓症患者のリハビリテーション」について講演しました。

特別講演では、飛騨一利院長が座長となり、北海道脳神経外科記念病院の青樹毅副院長が「心原性脳塞栓症の現況 - 急性期から予防治療まで - 」と題して講演しました。講演終了後の情報交換会にも多くの方が出席し、地域連携の在り方について語り合い、親睦を深めました。



編集後記

札幌麻生脳神経外科病院は開院して33年が経ちました。「患者さま第一」の思いは、当時から今も変わりません。初心忘るべからず。人生100年時代が訪れようとしています。寿命と健康寿命の間には、男性で9年、女性で13年差があると言われています。脳卒中を予防し、健康長寿を目指してください。患者さまの笑顔は私たちの宝物です。

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院

〒065-0022 札幌市東区北22条東1丁目1-40
TEL 011-731-2321(代表) FAX 011-731-0559
ホームページ <http://www.azabunougeka.or.jp>

交通アクセス

- 地下鉄：南北線 北24条駅下車
(2番・3番出口から徒歩約7分)
- 中央バス：「北21東1」下車、徒歩約2分
- 中央バス：「北24東1」下車、徒歩約2分



携帯用サイト



当院への バス路線 中央バス

屯田線 02・新琴似線 09・あいの里・篠路線 22
篠路駅前団地線 36・ひまわり団地線 28
花川南団地線 14・花咲団地線 16・元町線 東70
石狩線・石狩線(トーマン団地行)・札厚線・札幌線(特急)

※お間違いないようご注意ください

- 往路と復路とで停留所の異なる路線があります。
新琴似線 09・花川南団地線 14・花咲団地線 16・石狩線・石狩線(トーマン団地行)
- バス停「北24条東1丁目」は旧石狩街道・石狩街道・宮の森北24条通の3カ所あります。